パネルディスカッション

被害直後に声をあげやすくするために必要なこと

パネリスト	山田　浩史氏	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院泌尿器科副部長 性暴力救援センター日赤なごやなごみ副センター長
	濱田　智崇氏	京都橘大学総合心理学部准教授 カウンセリングオフィス天満橋代表
モデレーター	熊谷　明彦氏	桜みらい法律事務所弁護士 全国被害者支援ネットワーク副理事長
コーディネーター	遠藤えりな氏	ひょうご被害者支援センター事務局長 NNVS 認定コーディネーター

性犯罪の被害者は女性と思われがちですが、昨年大きく報道された芸能事務所の性虐待事件で、多くの若い男性たちが性被害を受けていたことが明るみに出ました。男性は心身に傷を負い、悩みを深めても相談を

ためらう傾向があるといいます。パネルディスカッションでは、男性被害の実態を踏まえて、男性が声を上げやすくする手立てや、これまで経験の少なかった支援のこれからを考えました。

名古屋市の性暴力救援センターで活動する医師の山田浩史氏は、2017年の刑法改正で男性が性被害の対象になるのを機に、活動に関わり始めた経緯を説明。昨年の芸能事務所の事件で電話相談が非常に増えたといいますが、それでも面談した被害者のうち男性は16.8%にとどまり、女性に比べてかなり少ない。「男性が来所するには敷居が高い」と現状を述べました。男性被害者のほぼ６０% が未成年です。顔見知りからの加害が大半、近親者からが３分の1を占め、家庭や学校など社会生活の中での被害が多い。加害の親や指導者とは力の上下関係があり潜在化しやすい、と報告しました。

心理士の濱田氏からは、29年続けている男性相談を通じて、男性に関する規範、価値観が「被害に向き合いにくくしている」と指摘しました。社会に広がる「強い男性」観を背景に、被害者でありながら自責や「恥ずかしい」という感情を持ってしまう。周りが知れば「男性なら被害を防げたはず」という目で見て、自身も被害を過小評価しようとする。加えて、男性の耐える姿勢や自己犠牲が、学校で隠れたカリキュラムとして教えられ、被害を主張しにくい心理を作ってしまっていると濱田氏は問題提起します。

「なかなか声を上げられない男性の相談を最初にキャッチできること」の重要性を両氏の話から、被害者支援センターの遠藤氏は受け止めたと話しました。その上で、支援センターでは女性の性被害相談が多く、「男性の相談だと身構えてしまう」と率直に話したことから、相談者側のあり方に議論が広がりました。

山田氏は「加害者は男性が多いので男性自体に恐怖を感じる方も多々いる」と経験を述べました。葛藤の末に勇気を出しての相談であり、「温かい気持ちで迎え入れてあげるのが非常に大事」「うちは男性相談員がいなからダメと思わないで」と助言しました。相談経験豊富な濱田氏は「相談員が女性であっても、ビビらないでいただきたい」と強く求めました。男性からの被害相談が全て理解できなくても「そういうことがあるんだろうな」と尊重することが大切で、「覚悟を持って受け止めて」と話しました。

そもそも男性は相談しないことが多いことから、間口が広く、ハードルが低い相談窓口を増やす必要性も指摘されました。二次被害を起こさないよう、相談で押し付けたり、否定したり、励ましたりしない、のは男女とも同じ。ただ、男性は女性以上に名誉を気にしがちで、怒られるとか笑われることに敏感との指摘があり、配慮を加えることも必要とされました。

男性の性被害は、相談までに長い苦しみや被害の影響があり、現実的な解決が難しいケースも。濱田氏は「抱え続けるのも大事な相談スキル」と息の長い支援が重要といいます。熊谷氏からは立証が難しい刑事事件は長期化し、被害者が自責から他責へ転換することも踏まえ、「支援の仕方も変わってくるのでは」「支援者が試行錯誤していかなくては」と話しました。

相談から医療にどうつなげるのかも議論されました。山田氏は「正直なところ、医療者の性被害に対する姿勢は全国で均一になっていない」と残念がりました。そこで「協力してくれそうな医師とネットワークを事前に作っておく必要がある」と提案しました。地域で性感染症の診察ができる機関や心理士、精神科医師らと、どうつなげればいいか回数を重ねて話していくことだと言います。熊谷氏は、各地の支援センターでまず相談してもらい、心理士や精神科医を紹介することで、二次被害を避けられると言います。

医療や心理士の育成に性暴力やジェンダーの視点が欠けているなどの課題が指摘されましたが、一方で山田氏は「地域でチームを組んで活動を継続し、少しでも広がっていくといい」と期待を示しました。熊谷氏は「被害者支援をオールマイティにできる人は世の中におりません」と述べ、医療や心理、法律、経済各面の支援に専門家が力を合わせるのが基本と強調しました。遠藤氏は「それぞれ地元に帰って、できるところからやらなければ」と、会場に集まった全国の相談員らに語りかけました。

熊谷明彦 氏　遠藤えりな 氏　山田浩史 氏　濱田智崇 氏